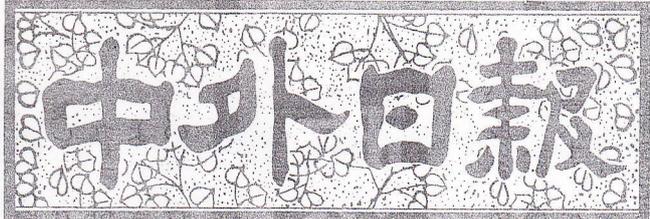


発行所
株式会社 中外日報社
©中外日報社2007

京都総本社 〒601-8004 東京本社 〒113-0033
京都市南区東九条東山王町9 東京都文京区本郷4-9-13
電話 (075) 671-3211(代) 電話 (03) 3816-4721(代)
FAX (075) 671-2140 FAX (03) 3811-5222

http://www.chugainippoh.co.jp
Eメール henshu@chugainippoh.co.jp



購読料(送料共)
三ヶ月 九六〇〇円
六ヶ月 一九二〇〇円
一年 三八四〇〇円
円

(9) 平成19年(2007年)10月25日



「教界の将来」に警告する吉田氏

百年後の仏教界考えよう

知恩院 吉田布教師が提唱

大阪教区浄土宗青年会「百年後を考える」を主催する第二回研修会が二十三日、大阪市天王寺区の應徳院を会場に開催され、吉田一心・浄土宗総本山知恩院布教師が「百年後を考える」をテーマに講演した。吉田氏は平成三年に四十五歳で出家し、八年に三重県鈴鹿市の南龍寺住職に就任。その後、新寺建立を発願して十五年に同寺住職を退任し、東京都小笠原村父島に移住。翌十六年から勸進行を始め、全国の寺院や福祉施設などで活発な教化活動

を実践している。現在、父島宇扇浦に行行寺本堂と庫裡の建設が進められ、年内には完成する運び。落慶法要は小笠原諸島がアメリカから返還されて四十年目の節目にあたる来年の六月下旬に予定されている。

人口は半減し 若い僧も減る

大阪浄青の研修会

吉田氏は講演の中で、日本の人口が百年後には半減して六千四百万人と予測されていることに言

及、今の日本の人口は明治三十年代と比較して約三倍に増えたが、浄土宗の寺院数はほぼ横ばいのまま推移し、近年では兼務住職寺院が無住職寺院となつて寺院活動ができなくなるケースが増えていると警鐘を鳴らした。また団塊世代の僧侶(住職)数に比較して、二十代の僧侶が激減していること指摘。「どうすれば寺院が百年後も生き残れるのか。社会が必要とする僧侶のあり方」を共に勉強し研鑽しよう」と「百考塾」を立ち上げたことも紹介。最後に吉田氏は、「百年の計は人を養つにあり」といわれるが、世代を超えてしっかりと後継者育成をしなければならぬ。これからも百年後のことを真剣に考える仲間を全国につくらなければならない」と締めくくった。